
タバスコパスタ

さとうかなあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タバスコパスタ

【Nコード】

N7448E

【作者名】

さとうかなあ

【あらすじ】

かなあ式エッセイなのです。「禁15」とか「禁18」とか、ないですけど、しいて言えば「禁まともな人」でしょうか。…毎日を頑張って生きているかも知れない私のおハナシです。ボランティア感覚の優れている人向けノベルズの決定版！…って、ノベルズってナニ？エッセイ関係ないし。ただ一度言ってみただけ。娯楽度は<軽>真面目度は<重>で、数はい程、高いということ
で^^

言葉は酷使されている。(中)

なんていうんでしょうか。「うーん」と言葉に困っていたら、ア
フリーちゃんが「日本語作文小論文検定」というタイトルを出して
ました。

…即座にクリックしてしまいました。

「今の私に必要なものはコレだっつっ！！！」

人生一寸先はナニがあるか分かりませんから。他人に通じるコ
トバを用いる人にならなくてはっ！

しかし、コトバが酷使されている時代。

なんかもう、『どっか磨耗してんじゃないですか?』という形容
詞など山積みされてるカンジの今。なのに立派です。めっちゃ不良
している、徘徊とか家出とかしまくっている青少年を、愛をもって
正している親心たっぷりの雰囲気です。それが、アレですね。御維
新に正義をもって日本を守るぞという武士の魂みたいな。

私は感じ入ったので、『日本に生まれた以上、日本語の美しさと
奥深さを身につけたい!』と、もの凄く思いました。

あ、イカン。

昔、古典の先生に怒られましたのだ。“「もの」も「凄く」も、
意味を強める言葉。そうそう気軽に、しかも重ねて使う物じゃあり
ません!”

その通りです。すみません先生 m (| |) m

というか顔文字も嫌われたし。

というか、『というか』もダメでしょ。というか、(オイ、反省してねえぞ！)日本語について考察してるならさあ、タイトルなるとかしなくちゃでしょう。そうでしょう。

刺激求め過ぎのメニューでしょう、それじゃあ…。

キラ伊だったもの。(重)(前書き)

後ろ向きの話はやっぱり暗い。

あーっっっおちやうけたいい！！！が、今日は我慢。

キライだったもの。(重)

「好き嫌いはダメだよ」

親戚などオトナ達におかれましては食事の仕方についてよくホントによく言われた。『でも、私、食べ物の好き嫌いは無いよ。食べ残しとかもしないよ。お茶碗のご飯粒も一つ残らず、お皿のオカズも野菜もお肉もお魚も…』と思ったりして…。

でも、先入観なんだなあ。オトナって。

キョウダイで私だけ『痩せ過ぎ』だから。

加えて、あまりに高頻度で注意されると、答えが面倒になる私のせい。

「はい」

で、済ませてしまっていた…。

言い返すのも説明するのも面倒になる悪い癖。理解されるコトより、大人のお説教の時間をさっさと通り過ぎたい気持ち優先する、悪い癖。

それにオトナは、ある程度、持論を吐き出せば、その効果など確認せず満足して去っていくのを知っていたから…かも知れない。

でも、キライなんだなあ。自分のそういう癖が。

ちゃんとしないとイカンイカン…って、つい、笑いながらはぐらかしてしまつとかも…。

そういえば、どうしてかなあ。深刻な状況に直面すると、カオが笑ってしまう。ワザとじゃないのに笑ってしまう。笑っていることに気付かないときもあったり…。

百メートル走のタイムを計る時があった。

私だけ、『真面目にやれっ!!!』と体育の先生に怒られ、やり直し。

また走る。で、『いいかげんにしろ。ふざけてるんじゃないっ!』
ますます怒らせ、やり直し。何故?

と思つたら、緊張のためか、めっちゃめっちゃ顔が笑っていた…。ガ
ーン。

ツライもの。(重)

遺伝子に刻み込まれているのでしょうか？

絶えられないほど恐怖を感じるもの。

丸い模様。

食堂の給水器の傍のキレイにトレイに納まったギユウギユウ詰めのコップ。電話器のプツプツ並んだ穴。回転寿司の平に並んだイクラ。緩衝材のぶつぶつ。コンピューターの基盤の穴、穴、穴、穴。赤と緑のダーツ版。鳥除けの・・・ナニ？名前恐くて確認もできない。

巨大なもの。

星座。実物は恐ろしくて直視できない。小学校までは大丈夫だったのに、好きだったのに・・・。日本地図。世界地図。・・・の局部的拡大版。天気予報の、やはり日本地図。デフォルメされていてても恐くて目をつぶっちゃう。もつと拡大されていてクツキリした四国とか、能登半島とか・・・。目が回って気が遠くなりそう。喉がカラカラになって床や足元を見てやり過ごす。ぎゅっと握った掌がジメツとなっている。そして宇宙が怖い。果てしない大きさが耐えられない。アニメの背景に描かれているCGでも・・・実はダメ。特に・・・、

小学校の理科の教科書の、星座のページ。

普通の町が、家並みが、小さく小さく枠の下に書かれていて、対照的な大きさで、地平線から半分出ているオリオン座。せめて白鳥座のように真上にあったら、真上なら避けられるのに。さそり座やオリオン座は気付きやすく目に入りやすい。それがリアルに説明

されているから、忘れようとしても、現実の、実際の運転中に目に入りやすい。・・・だから夜のドライブはキライ。

規則正しいもの。

クモの複眼の電子顕微鏡写真。当然、電子顕微鏡など覗けない。恐い。勇気がない。また、小学校の時のハナシ。顕微鏡に置かれたビレパルトの上の玉ねぎスライス。あれから植物にしばらく触れなくなった。今でも花びらはダメ。ぞわっ。もっとダメなものは文字にもできない。漢字は表現するものの形を上手に表しすぎ。

機械編みのニット。スエットスーツの細かい編み目。絞り染めの模様。松かさのような病気の金魚。パイナップルの外皮。

でも、やっぱり、・・・一番辛いのは、元々好きなものがダメになること。

ピアノの音が好き。今も好き。ただ、中途半端に上手い奏者のピアノが辛い・・・。

自分の為にも、聞く人の為にも弾いていない。そしてそれに気付いてもいない。

そういうピアノから感じるものは、メトロノームと楽譜のルールだけ。

虚しい行為が一番辛い。

淘汰されなかった悲しみ（重重）

僕の前でパソコンを覗き込みながら医者が言う。

「先日の検査の結果ですが、良いお知らせですよ。∴IQは128でした」

僕の後ろに立っていた両親から『ホッ』とした空気が流れる。椅子に座っていた僕から彼らの姿は見えないが、ハッキリとした喜びが診察室を包んでいく。ジワジワと。しかし圧倒的な雰囲気です。それに反比例するように僕の中には怒りが膨れ上がっていく、なんでなんでなんで、納得できない。

喜んでいる彼らが不快。耐えられないその価値観。

IQが標準を超えると『良い』のか。もし下回っていたら『悪い』お知らせなのか。育児書もカウンセリングの良書も読み込んでいるハズの父と母。専門家のハズの精神科の医師。それでも違和感が無いのだろうか。

いつそ僕の知能指数が0なら良かったのに。そうして本気で悩めばいいのに。

医者の結果を聞いて、どこか安心していている両親。全く何も変わっていない現状の中で、それでも、何と少しでも安心できる材料を探している。何も良くなっていないのに、原因が自分たち、そして僕の中には無いことを断固として探し続ける空しい作業。

原因は見えてはいるはず。他の検査だっているいろいろあるんだ。

けど、どんなに見えていても、彼らは目を逸らす理由を探し続ける。医者までその手助けをする形が出来上がっている。ドクターシヨッピングをする側とされる側。現実を置いてきぼりにしながら、診察という形の悪循環が出来上がる。

解決の糸口を探り当てた医者がいなかった訳ではない。むしろそちらの方が多かったかもしれない。しかし、そういう時に限って、次に僕が連れて行かれる病院は別の所が変わっているのだ。頑固な両親と無力な僕の虚しい旅。

だけどね。

日本中、気付かれず虚しい旅を続ける人が、今はいっぱいいるみたいなんだ。

「無理やり生まれて良かったのかな？ 僕」

淘汰されなかった悲しみ（重重重）（後書き）

『不妊治療とか、早産予防とか…、お金も手間もかけさせて生まれてきたのに、それからも、多分一生…“フツウ”の子より負担かけるよ。僕。』

鼻先にニンジン。(?)

「欲しがりません。勝つまでは！」

と、第二次世界大戦時代の日本人の合言葉。そして協調性に優れてか、5人組の成果か、みんな本当に頑張り抜いて、そのお陰で今があります。それから、

『高度経済成長』

日本のお父さんたちは、目が悪くなって、みな皆眼鏡になるほど、勉強や仕事を頑張り日本を敗戦ムードの中から、世界の勝ち組に押し上げてくれました。で、

『バブル』

これは失敗しました。それまでの努力の具現化したものが『金銭的豊かさ』だと勘違いして、「享受するのは今だっ！ 今までの苦労はこの為だったのだ！」的な誤解。お金の浪費と地上げ、ワイロ・・・・『援助交際』とか『不倫』という表現が生まれたのはこのころだったかと思えます。不品行を肯定するような表現。すっかり日本の芯の強さらしきものは破壊されました。・・・そんな為に長年おしんのような苦勞をしたのではないのでしょうか。

で、今。

集団行動で安心感を得る。或いは、他者から認められる事でやる気が出るっぽい日本民族なのに、欧米型の個人主義が浸透して、、、加えて不況で、、余計なことを言う人もいなければ、本当の意味で助けてくれる人も少なくなっただし、素直に助けを受け入れる謙虚

さも失いそうだし、『オンリーワン』と言われても、どうしようもないオンリーワンでは、生きていけないし。

誰かまた、無茶と分っていても、日本人の鼻先に『ニンジン』をぶら下げてくれないと、多少のことはガマンして、突き進む先を示してもらわないと、みんな行き詰っているんですけど。

でも、そんな過激な、個人を否定するような環境にならなくても、鎖国とかよりずっと昔みたいに、甘えあって、支えあって、「個」と「集団」がせめぎ合いながらも、生きる意味を感じられる国でありたいよね。

意識不明って・・・（やや軽）

人生初、今年、はじめて救急車に乗りました。

タンカで運ばれ、血圧計られ、「40・・・30・・・です！」という叫び声が遠くに聞こえながら・・・とにかくわからない機械をつけられて、救急外来へ届けられて。

そして本当に、アレなんです。 「1・2・3！」と言って患者をストレッチャーからベッドに移動するあれ！ TVで見たのと同じなんだあ・・・と、思いつつ、意識が薄れたり戻ったりの中で、後から思い出したことですが。

最中はもう、洗濯機の中の衣類になったようなグルグル感で、自分が何されてるか分らないんですね。 幾人かの先生が、隙間無く質問をすることに、なんかフニャフニャと答えてたもようですが。

でも、意識を維持するために、住所とか、子供の名前とか、隙間無く質問され、お陰で助かりました。 で、数ヶ月後、こうしてPCのキーボードカチカチしてるんですから、よかったです。 しかし、助ける為の労力と時間と資金。 大きいものだと思いました。 今、救急車自体、呼び出しが多くて大変そうだし。

助けただけの人になれば良いのですが。 それか、恩返しかなあ。

それにしても、

体調が落ち着いて、救急外来をでるとき、看護師さんに大きなビニール袋を渡されました。 「これ、はいてくださいね」

見れば、私のズボンとパンツ・・・。

救急外来へ運びこまれ意識が混沌としてる間、ストレッチャーで

あちらこちらに運ばれたのは覚えていますが、下血があつたせいかな、下半身脱がされていたのだ。全然気付かなかつた。そういえば、お腹のレントゲンなども取られた気がするし。いろいろ一気に検査されたのでした。

恥ずかしかつたです。もう行きたくない。

アルコールとか薬物とかで運ばれる人は、身体中、出るものは全てソソウしますし。なら、そういう方面は避けたい。救急車+救急外来は極力避けたい。

・・・ところで、私が運ばれた原因は流行の？ 熱中症でした。

(+持病)

『自立支援』という暴力？（重）

ちょっと前に知り合いが、「仕事をクビになった」という話を聞きました。

こんな不況ですから、どこにでもある話かも知れない。でも、当事者には死活問題ですし、かと言って若干、身体と精神に障害を持っていると、就職先というか、面接先さえ見つからない時代。でも、働かなくちゃ・・・というコトでハロー　へ行きますが、だいぶ通っても受け入れ先が無い。で、やっと見つけて行ってみると、なかなか効率的な作業が出来ず、試用期間満了を見ず、解雇という結果に。

今や、色々な人に『自立』という言葉が無神経に迫っている気がします。

ニート、
引きこもり、
お年寄り、
障害者、
病人などなど、

何年も前ですが、一人の自立可能とされた身体的、知的障害者夫婦の話のひとつ。

支援の甲斐あってか、アパートを借り、少しの身体の障害は乗り越え、子を産み、支援されながらの育児、生活、社会参加。

医療関係者から見れば、お金の管理が出来、社会的に害を与えず、税金などの義務を果たせていれば、それは自立なのかも知れませんが、

地元では、「困った人」のレッテルが貼られました。

子供同士で遊ぶ仲間から、なんとなくハズされてるようです。

学校行事などの、親の協力での、送迎などでも、「頼まれなかったから」で、ハズされてます。

こども会からは、入会案内も無かったみたいです。入会されても、ちよつと…というカンジ。

なぜか？

町内会には不参加、町内清掃不参加料の不払い、ごみの仕分け不十分。PTA不参加、皆が順々に無理をしてやっている役員…無視。お子さんが、他の子供の三輪車、おもちゃなど、勝手に持ってってしまう。などなど。

周囲にかける迷惑がいろいろあるので…。コミュニケーション不足と言ってしまうば、それまででしょう。でも、知的障害ってそもそも…。

身体的障害は無知な人でも、なんとなく配慮が必要と気付く。でも、知的な障害者は気付かれにくい。だからよけい、その夫婦には、子供には、尾ひれの多い偏見が飛ぶ。

援助者や民生委員でも、最低限の事に配慮するのがやっとの現実があるし、まさか、いろいろな役員など、ボランティアで代理、という訳にはいかないのでしょう。

でも、みんなキツキツなんです。

善意だけじゃ、持たないみたいなんです。

だから『なるべく、どんどん、自立しましょう』という掛け声は困るんです。『自立』が前提になると、頑張らなくちゃでしょうし。

迷惑をかけない様に…が『自立』なら、あえて、行政で唱えなくても、当事者が一番、ずっと最初から一番、プレッシャーを受けているのですけど。

でも、最も悲しい話は、

大企業（工場）の、障害者雇用枠で就職した、知的障害の女の子の話。（私から見ればまだ“女の子”）就職して数ヶ月、何となく彼女から手話を習っていた私に生き生きと話してくれたこと。

「付き合ってる人いるんだ」（聞き取りにくい慣れると分かる発音）

「へえ、すごい。どんな人」

「同じ工場の人！　　さん」

凄く自慢気な顔。でも、偶然、私、その男性の奥さんが知り合いました。つまり不倫ということ。でも、彼女は、彼が独身だと思っているのです。

彼女を私の車に乗せ、家へ送って行った途中のことは忘れない。

「あそこっ！（ラブホテルを指差して）あそこは、結構きれい。部屋もいいんだ」

「こっちは、外だけきれいで、中はダメ」

「そこは安いから、給料日前に行くところ」

彼女は初めて出来た彼氏に夢中。生きがいと云っていい。彼中心の生活。イキナリ無くなったらどうなっちゃうか…。

職場の人たちだって、その男が既婚者なのは知っているハズなのに。（結婚式盛大だったし）こうなる前に止めることは出来なかったのか悔やまれます。

知的障害者にも、『自立支援』は残酷な面が多いです。

寄生ラッシュ (軽軽系)

お盆というか夏休みは、日本国中大移動でしょう？

もう、お中元とかはだんだん軽くなっているとはいえ、この季節の出費はすごいものがあります。うん。

あらまあ、奥様・・・の会話っぽいハナシになってきましたけど、ウチはまだ、親子間でも兄弟間でもお中元ありの習慣なので、一年の前半の収入は、この時期の為に備蓄しておかねばなりません。

備蓄というか、微蓄なんだけどね。

で、交通費から始まって出費は多大なのであります。体力とかも凄く使うけど、・・・何しろ、今回も移動中に熱中症になりかけたし(苦笑)

車の渋滞も凄そうだし、新幹線の移動も、荷物が重そうで運ぶのも歩くのも大変そうだし。

特に、小さいお子様連れの人々！ 親というのは忍耐力というか愛情というか、いっぱいじゃないとやってけないゾという雰囲気満載なご様子で、毎回、見るだけで圧倒されてしまう。子育てとはすごい労力必要なんだ・・・。

+ お金ですね。

でもあれです。ウチは「帰る」側なので、ある意味助かってるかも。

親が元気なうちは、お小遣いとか貰えるし、孫はもちろん、夫まで……。で、外出すれば「外食費」持たせて頂けるし……。帰るときは、沢山お土産頂くし。シーツとかの大物洗濯だっていっぱいだし、ご飯も大量だし、お風呂の順番終わるまで起きて待ってたりとか。大変なのは受け入れる方なもの。

数十年後……同じようにできるだろうか？ 寄生一族の受け入れを……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7448e/>

タバスコパスタ

2010年10月13日18時05分発行